



国宝羽黒山五重塔ライトアップスタート

7月14日(土) 羽黒山五重塔において、ライトアップオープニングセレモニーが行われ、出羽三山神社によるご祈祷と津軽三味線「木田林秀栄社中」の皆さんによる奉納演奏が披露されました。

なお、期間中の実施日時等は下記とおりです。昼とは異なる五重塔はいかがですか。

◎期 日 7月14日～10月28日の土曜・日曜日・祝日

※8月13日(月)～15日(水)も実施

◎時 間 7月・8月…午後6時～9時(受付終了:8時30分)

9月・10月…午後5時30分～8時30分(受付終了:8時)

◎協力金 300円 ◎問合せ 羽黒町観光協会 ☎62-4727



羽黒地域の玄関口を 美しい花でいっぱい! ～観光地花いっぱい事業～

7月14日(土) 早朝、地域住民ら約50名が参加して十字集落地内の交差点交通島への、花の植栽が行われました。

大鳥居前の観光道路を植栽することで、美しい景観で訪れる方を迎え入れたいという思いから、花いっぱいクラブ(渡部幸也代表)が広く市民に呼びかけて実施したものです。



鶴岡市立図書館羽黒分館からのお知らせ

夏のおはなし会と 児童書リサイクル本プレゼント

夏のおはなし会

夏のおはなし会を開催します。大人から子どもまで、どなたでもご参加ください。

◎日 時 8月18日(土) 午前10時30分

◎場 所 羽黒分館児童室



児童書リサイクル本プレゼント

◎日 時 8月18日(土)～19日(日)

午前10時から午後4時まで ※無くなり次第終了。

◎開館時間 平日 午前9時～午後6時

土日祝 午前9時～午後5時

◎問 合 せ 図書館羽黒分館 ☎62-2111(内線401)

松ヶ岡開墾場駐車場等 修景整備工事 工期延長のお知らせ

現在、整備を進めております松ヶ岡開墾場駐車場について、舗装仕様の見直しや地下埋設物の確認に期間を要したため、工期を9月14日(金)まで延長します。

なお、お盆前後の8月4日(土)から8月26日(日)までは、混雑が予想されるため整備中の駐車場を開放します。

◎問 合 せ 都市計画課公園緑地係

☎25-2111(内線466)

門前町手向地区

出羽三山の 歴史や文化を活用したまちづくり

鶴岡市歴史的風致維持向上計画の重点区域である手向地区。同地区には、宿坊や土塁など、出羽三山の門前町としての歴史的まちなみが残され、多くの参拝者や観光客が訪れています。現在同地区では、住民の皆さんや関係団体の皆さんが中心となり、歴史や文化を保存・継承しながら、地区ならではの魅力を活用した歴史まちづくり活動を行っています。

まちあるきベンチづくり ボランティア募集

前2年間の黑板塀塗替作業に続き出羽三山魅力発信協議会では、景観整備・にぎわいづくり活動の一貫として、地元大工さんと東北公益文科大学大学院高谷研究室の協力のもと、まちあるきベンチを製作します。

今年度は、地元の方々をはじめ、正善院黄金堂や金剛樹院、風情ある自坊小路など、池ノ仲集落周辺のまち歩きを楽しむ方が休憩できるように、手向地区地域活動センター敷地内に設置する予定です。

ご興味がある方、ぜひ参加してみませんか。

◎日 時 8月5日(日) 午前9時～午後4時
(午前・午後いずれかのみでの参加でも大丈夫です。)

◎会 場 手向地区地域活動センター

◎講 師 山本秀春さん(手向地区在住)

◎持ち物 電動ビス打機(お持ちであれば)

◎申込み 出羽三山魅力発信協議会事務局(羽黒庁舎総務企画課内)
☎62-2111(内線215)

提燈プロジェクト

かつて手向地区では、祭や催事の際に各戸に提燈が設置され、その光景は出羽三山の門前町としての賑わいを演出していましたが、近年では提燈を所持する家は一部となりました。失われつつあるこの伝統をもう一度復活させようと、手向地区自治振興会が中心となり「山伏の里へ提燈を灯す会」を発足させ、コミュニティ助成事業(一般財団法人自治総合センター・宝くじ助成)を活用して、提燈づくりにとりかかりました。平成31年度から提燈にあかりがともる予定です。

◎問合せ 手向地区自治振興会 ☎62-2128



景観整備活動 黑板塀塗替作業
(H29年度)



手向古道整備事業 (H29年度)



手向の歴史・文化をテーマにした課外学習
(羽黒高等学校 7月12日)

山形県農村環境保全指導員活動の紹介 ～羽黒小学校ブナの植樹活動～

6月24日(日)に、羽黒小学校のそばを流れる笹川(藤島川)の上流にある植樹地で、農村環境保全指導員の齋藤徳美さんやブナ植樹推進委員会メンバーの指導のもとブナの苗木が5年生児童と保護者によって植樹されました。子どもたちはスコップで土を掘り起こし、学校で育ててきた苗木を植えると、元気に育つようにと水をかけてやり、それぞれの木に児童が命名した木の名前を結び付けていました。この体験を通じて子どもたちが森林環境保全に関心を持つことで、今後の農村地域活性化につながることを期待されます。

